

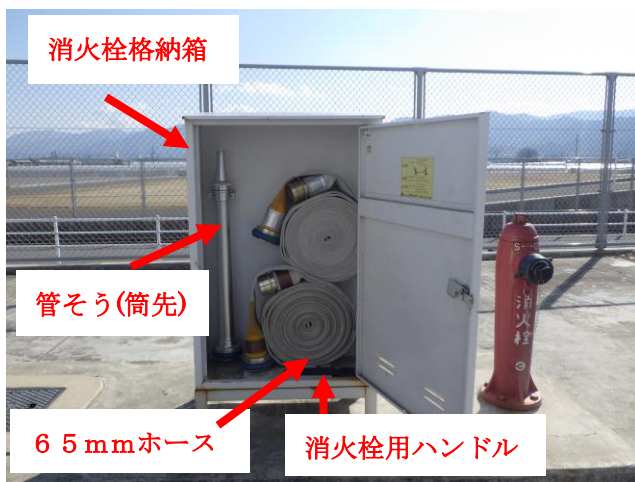
地上式消火栓取扱い要領

大規模災害時において多発する火災による被害を軽減するため、消防隊が到着するまで自主防災組織による初期消火で延焼拡大の防止を図る必要があります。

有事の際、自主防災組織は各地域の消火栓格納箱内に収納してある資器材を活用し初期消火を行います。

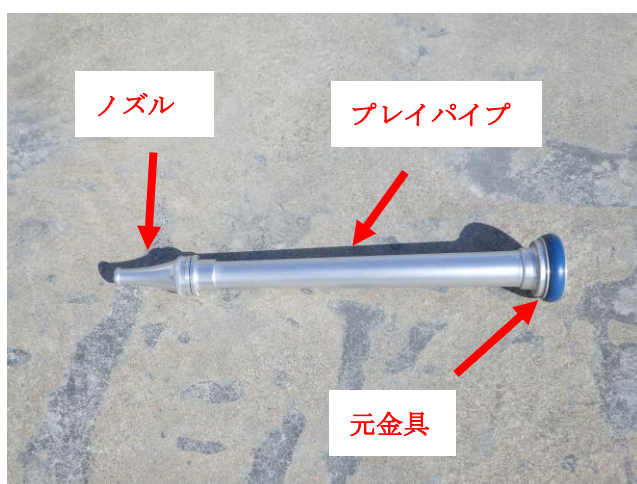
初期消火を安全に行うため、次の要領を参考としてご活用下さい。

1 地上式消火栓を使用するための資器材



※ 消火栓格納箱内には、「管そう」、「6 5 mmホース」、「消火栓用ハンドル」が収納されています。(市町村によって違いあり)

2 資器材の名称



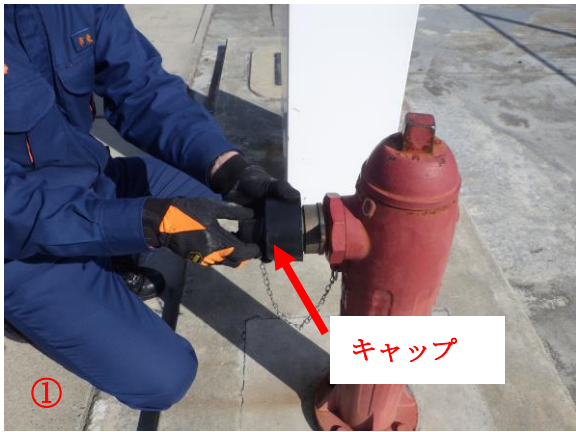
管そう



ホース

3 消火栓とホースの結合

(1) 消火栓の結合部のキャップを回して外す。消火栓用ハンドルを上部の突起に差し込み回す。ホースを結合する前に一度開放して、水が出ることを確認する。水に汚れがある場合は、ある程度汚れがなくなるまで開放し、確認後閉鎖する。(汚れ等がホースの結合部の目詰まりの原因になるため)



(2) ホースのメス金具側を結合する。結合後は必ずハカマ部分を両手で引いて結合（ツメが掛かっていること）を確認する。



4 ホースの延長要領

(1) 一重巻き

右手(左手)にメス金具を持ち、左手(右手)で巻いたホースをつかむようにして、振り子の要領でホースを振りながら、前に放り出す。放り出した瞬間にメス金具を手前に引くようにすると、ホースがよく転がり、一気にホースを延長することができる。



(2) 二重巻き

ア ホースのメス金具が手前になるように立て、右足先でメス金具近くを踏み、右手でオス金具を下方から確実に保持し、左手はホースに添える。



5 ホースの搬送要領

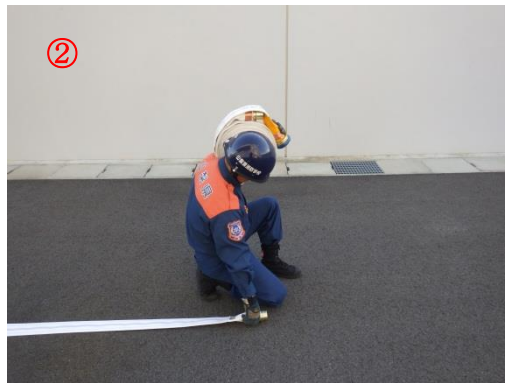
- (1) 折り膝の姿勢又は折り膝に準じた姿勢で、右手でメス金具、左手でメス金具の反対側を保持して持ち上げ、メス金具が上部斜め前方になるように左肩上に乗せ、左手に持ち替えて安定させた後、立ち上がる。



- (2) メス金具部を左手に持ち替えた後、右手で第1ホースのオス金具を持ち、腰につけ、立ち上がり、駆け足で展長ホースの左側に沿って前進する。



- (3) 第2結合部に至ったら、第1ホースを静かに置く。



6 ホースの結合要領

第1ホースのオス金具がやや上を向くように右足先で押さえ、第2ホースのメス金具を両手に持って、第1ホースのオス金具に合わせて差し込んで結合した後、ハカマ部分を両手で引いて結合（ツメが掛かっていること）を確認する。



7 筒先の結合要領

左足先で、オス金具がやや上を向くように金具付近を押さえ、オス金具に筒先を合わせて差し込んで結合した後、筒先を引いて結合（ツメが掛かっていること）を確認する。



8 基本注水姿勢

- (1) 右手は根元付近を握って右腰にあて、左手はプレイパイプ上部を握って仰角概ね30度で保持し、体形は左足を1歩前へ踏み出し、膝をやや曲げると同時に体重を前方に置き、右足は放水の反動力を抑えるため、まっすぐ伸ばし前傾姿勢をとる。



※ 注水補助

筒先補助者は、筒先担当者の反対側1歩後方（約70cm）に位置し、右足を1歩踏み出して右手で筒先側、左手でポンプ側のホースを持ち、反動力に耐え得るやや腰を落とした前傾姿勢で注水補助を行う。



9 放水始め

筒先担当者は、放水の準備ができれば消火栓担当者に対して「放水始め」と挙手等で合図を行う。（見通しが悪い場合は、伝令者が伝える）消火栓担当者は、消火栓を開放する。消火栓の開閉操作は、ゆっくり行う。急激な開閉操作によりホースが暴れ身体に当たり負傷することがあります。



10 放水止め

筒先担当者は、放水を停止する際、消火栓担当者に対して「放水止め」と手を水平に上げる等の合図を行う。（見通しが悪い場合は、伝令者が伝える）消火栓担当者は、消火栓を閉鎖する。



11 注意点等



筒先を離した場合、筒先が放水圧で暴れ非常に危険です。必ず筒先担当者が筒先を保持して下さい。万が一筒先を離した時は、消火栓を閉鎖して下さい。



自身の怪我防止として、ヘルメット、革手袋、安全靴等を活用して下さい。

- ・各市町村により、消火栓格納箱内の資器材が異なります。
- ・消火栓を使用する際は、複数名で行って下さい。（4人以上が望ましい）

（筒先担当者、筒先補助者、消火栓担当者、伝令員等）

- ・消火栓の圧力調整は、開閉操作により行って下さい。また、開閉操作はゆっくり行って下さい。（急激な開放は危険）
- ・放水は屋外から行い、燃えている建物内には危険なため入らないで下さい。
- ・訓練等で使用する際は、各市町村の担当者へ連絡してから行って下さい。
- ・訓練で使用する際は、必ず地元消防団等から指導を受けてから行って下さい。

1 2 参考文献

- (1) 総務省消防庁「消防操法の基準」
- (2) 東京消防庁「3訂版 目で見える消防活動マニュアル」東京法令出版 2017年
- (3) 消防教育訓練研究会 菊池勝也編著「3訂版 イラストでわかる消防訓練マニュアル」東京法令出版 2015年
- (4) 消防ポンプ操法研究会編集「初版 目で見て分かる消防ポンプ操法」東京法令出版 2016年
- (5) 消防庁・日本消防協会「第25回全国消防操法大会操法実施要領」